ROCINANTES

遠回り

第28号 目次

01 ピックアップ
P1……ハフィール改修が完了
P2……ザンビア事業所３周年

02 スーダンだより
P3……病院に影のできない手術用照明を寄贈
P4……スーダンで初めての生体肝移植を実現
P5……学校事業完了、ビフォーアフター
P6……10年ぶりに最初の事業地訪問

03 ザンビアだより
P7……サンビアでエコー事業完了
P8……スタッフハウスの建設

04 読み物
P9……雲外蒼天：クーデターから1年
P10…日々ツラツラ日記：ご支援に感謝

05 国内活動、ニュース
P11…東北での健康農業同窓会
P12…高山理事がザンビアへ赴任
P13…TICAD8でサイドイベントを開催
P14…オンラインイベント開催

06 事務局からのおしらせ
P15…振込手数料免除口座を開設
P16…事務局だより

令和四年十二月十日
認定ＮＰＯ法人
ロシナンテス 発行

01　ピックアップ

スーダンの診療所に安全な水を!
ハフィールの改修が完了

ワッド・シュウェイン村の診療所が抱える水の問題を解決し、運営を軌道に乗せることを目指し進めてきたハフィール(ため池)改修プロジェクトが完了しました！

主な作業内容

- 既存のハフィールの横に新しく深いハフィールを掘削し連結、十分な水量を貯められる状態にする
- 家畜による汚染防止のためフェンスや家畜用水飲み場の設置
- 浄水システムや、水をくみ上げるための動力であるソーラーパネルの設置

水量確保のために貯水池を掘削（深さ４m）

浄水や水のくみ上げのためのソーラーパネル

家畜の侵入を防ぐための堤防・フェンス

01　ピックアップ

お揃いの服でお祝い！
ザンビア事業所３周年

ザンビア事務所は、今年で3周年を迎えました。これまでご支援いただきました皆さまに心より感謝申し上げます。3周年を記念して何かしよう……ということで、カラフルなチテンゲでお揃いの服を仕立てました！

チテンゲは、ザンビアで愛されているプリント布です。とにかくカラフルなのが特徴で、柄は、国旗を模したものから生き物や植物の絵が描いてあるものなど様々です。

今回は膨大なチテンゲたちの中から、ロシナンテスカラーである青を基調としたチテンゲを探しました。合計18mくらいの布を購入し、スタッフそれぞれが仕立て屋さんに持ち込みました。ドレス、腰巻、襟付きシャツ、襟なしシャツ…とそれぞれの個性が光りました。

02　スーダンだより

執刀医の負担軽減を目指して
病院に影のできない手術用照明を寄贈

スーダンの首都ハルツームにある国立消化器肝臓病センターへ、無影灯ヘッドライトの寄贈を行いました。

寄贈したのは、日頃よりご支援いただいている太陽商事株式会社様の「ウェアラブル手術用照明OPELA III」。器具や手指の影を減らす独自の配光設計で、動きやすさやかけ心地にこだわって作られた手術用のヘッドライトです。

限られた設備に加え、たびたび停電する環境の中で尽力するスーダンの執刀医の負担を大きく減らすことができ、手術を必要とする人々へよりより医療を届けることにつながります。

【ご寄贈品】ウェアラブル手術用照明OPELAIII 1台
【寄贈先】 国立消化器肝臓病センター

実際の使用者となる予定の医師がテスト装着する様子

寄贈先の国立消化器肝臓病センターは、スーダンの首都ハルツームにあるイブン・シーナー病院内の施設です。イブン・シーナー病院は、日本の支援によって85年に完成した消化器科・泌尿器科・耳鼻咽喉科の専門病院で、ロシナンテス設立前に理事長の川原が働いていた病院でもあります。

02　スーダンだより

「日本で見た手術をスーダンでも」スーダンで初めての生体肝移植を実現

2022年7月22日、スーダンのイブン・シーナー病院で、スーダンでは初となる生体肝移植が行われました。その際、前述の「ウェアラブル手術用照明OPELAIII」が使用されました。

翌日23日には記念式典が行われ、在スーダン日本大使館の方々と共に理事長の川原も出席しました。

この式典の主催者であるスーダン肝疾患機構代表のアブデルムネイム医師からは、インドによる継続的な支援によって実現したことへの感謝に加え、「2006年にロシナンテスが実施した九州大学での研修に参加し、生体肝移植を実際に見たことが始まりだった」という旨のコメントもいただきました。

2006年の研修の様子

ロシナンテスでは、2006年にイブン・シーナー病院の医師2人を、九州大学が行う生体肝臓移植手術の視察のために日本に招聘する事業を実施。そのうちの一人がアブデルムネイム医師でした。それ以来、アブデルムネイム医師は、外科医をイランや台湾に送って移植手術のトレーニングを重ね、現在は肝移植センター設立に向けて一歩一歩準備を整えているところです。

02　スーダンだより

学校事業、工事まで完了！
ボロボロだった学校のビフォーアフター

北コルドファン州で実施している学校事業について、工事が完了しました！ラマダン後の祝祭日が終わった５月から工事を開始、約半年の工事期間を経て、10月に小学校３校すべての工事を終えることができました。

現地通貨の大暴落、燃料不足と高騰、建築資材の高騰、断続的に続く抗議活動とあげればきりがない程の社会的困難がありましたが、現地パートナーの協力で完成させることができました。

学校の様子を写真でご紹介したいと思います。

小学校の校舎3棟の建設・改修を行いました。

ボロボロだった黒板も新しくなりました。

手洗い場を新設。右のタンクは、住民がお金を出し合い設置しました。

フェンスを設置。トイレも、各校に2棟ずつ新設しました。

02　スーダンだより

10年ぶり！最初の事業地、ガダーレフ州ハサバッラ村を訪問

今回、様々な事情で10年間一度も訪ねることができなかった、ロシナンテスの最初の事業地への再訪問が叶いました。

ハサバッラ村では、2006年～2011年にかけて、診療所建設及び運営、救急車の寄贈、給水所建設、そして女子小学校の建設と、包括的な事業を実施しました。しかし2011年に、複数の欧米の団体とともに活動停止命令を受け、撤退せざるを得ない状況となりました。当時、スーダンは米国からテロ支援国家と指定され、日本を含む欧米諸国との関係が緊張していたという背景がありました。そこから約10年を経てやっと、新規事業を行うための調査であれば、と訪問の許可が出たのです。

村の人々と感動の再会を果たし、支援のその後を直接見ることができました。救急車や給水所はこの10年のうちに数回故障したようですが、有料体制を敷いて上手にお金を管理し、その中から修理代を賄っていました。診療所や給水所も、ともに運営していた時のやり方を踏襲し、継続し続けてくれていました。外部の支援がなくとも、自分達だけで診療所、救急車、給水所、学校を運営できる体制が持続していることに感動しました。

女子小学校を卒業して看護の勉強をしに大学に進学した女の子も

現在も大切に使われていたロシナンテス提案の診療所スタッフ紹介

03　ザンビアだより

成果の出た事業を横展開
郡内の５つの診療所でもエコー研修を実施

昨年度の事業では、マザーシェルターを建設したムワプラ診療所に小型エコーの導入と診断方法の研修を実施しました。このムワプラ診療所でのエコー導入により、診療所での出産の増加、健診受診率の上昇など、成果を上げることができました。

こうした実績に加え、エコーによる診断の評判が大変良く、チサンバ郡の他の地域からも要望が寄せられるようになりました。関係者と共に協議した上で、今年は5つの診療所へ小型エコーの導入と診断方法の研修を行いました。

研修は、ムワプラ地域での研修と同様に、胎児の頭の位置や妊婦の胎盤の位置等、「正確に胎児や妊婦の危険な状態を見極める」ということに集中した内容で行われました。小さな診療所では対応できないような出産を事前に見極め、町にある施設が整備された安全な場所での出産を促すことができるようにするためです。講師からは、トラブルを避けるために性別の診断は避けたほうがよい、などと現地ならではの助言もありました。

研修を行った各診療所では既に職員によるエコー診断が行われています。何件もの危険な状態を見つけることができたという報告もあります。引き続き、各診療所での実施状況をモニタリングし、改善に努めていきます。

03　ザンビアだより

人材不足解消を目指して スタッフハウスの建設

マザーシェルターの建設が完了したムワプラ診療所で、診療所に勤務する職員のためのスタッフハウス（職員住居）の建設を行いました。

ムワプラ診療所は、カバーしているエリアが広いため、本来4〜5名は医療従事者が配属される必要がある地域です。しかし新しい職員が暮らすための住居がなく、これまで十分な人員配置を行うことができていませんでした。診療所に人を増やしてもらうにはスタッフハウスの建設が急務ということで、着手したプロジェクトでした。

医療ニーズに対して職員の数が足りておらず、日々の診療、母子保健活動に支障が出ていたことから、危機感を持った住民たちが、ロシナンテスが関わり始める前から準備を行っていました。そのため、この件は地域住民で組織された建設委員会が主体となって進め、ロシナンテスは一部の資機材購入をサポートするのみ、という形で進めてきました。

新しく派遣されたスタッフたち

途中建設がストップするなど様々な問題が起こりましたが、無事形にすることができました。スタッフは3名から6名へと大幅に増員され、そのうちの1名(写真右から2人目)がスタッフハウスでの生活を始めています。

04　雲外蒼天

続く政治危機…スーダンの今

スーダンでは2019年、長年独裁体制を敷いていたバシール政権が崩壊。その後民主化に向けた文民と軍の共同統治が行われていましたが、2021年10月25日に軍がクーデターを起こし、民主化への歩みは止まることとなりました。

それから1年、民主化勢力と軍との間で妥協点を見いだすことができず、2022年12月現在に至るまで首相不在の状態が続いています。クーデターから1年を機に何らかの動きがあるのではと期待されていましたが、リーダーシップを取れる人が出てこないという課題を抱えたまま膠着状態が続いています。

スーダン国内では引き続き民主化を求めるデモが頻発していますが、軍政のままでもよいのでは、と考える人々も増えてきており、国民の意見も割れています。

軍側のトップであるブルハン氏は、将来的に文民による新たな暫定政権が成立した後に、軍主導の統治評議会を解散し、新たに軍高等評議会を設置することを約束しています。しかし時期や手法については曖昧な点が多いことから、この約束にも懐疑的な見方が多く、今後もスーダンの政治危機はしばらく続きそうです。

混乱の最中にあるスーダンですが、淡い光の見える場面もあります。例えば、民主化を求めるデモが始まってから4年が経ちましたが、現在も”平和的な形で”デモが継続されていること。究極に落ち込んでいる経済状態の中でも、スタートアップとしてビジネスに挑戦する若者たちが首都に集っていることなどです。スーダンの人々があきらめない限り、寄り添い続けていきたいと思います。

04　日々ツラツラ日記

「ご支援に感謝」

こんにちは、ロシナンテスの川原です。９月半ばから10月半ばまで日本に一時帰国していましたが、現在はスーダンに帰任しています。

帰国中、私にとって強烈な印象を残してくれたイベントがありました。熊本であった浜田省吾さんのコンサートです。

コンサートがある１週間前に私は誕生日を迎え、57歳となっていました。浜田省吾さんは幾つなんだろう？と思い調べてみると、なんと69歳です。12月の誕生日を迎えると70歳ではないですか！

年齢を全く感じさせないエネルギッシュなステージに、心底酔いしれてしまいました。その圧倒的なパワーに全身に震えがきたほどです。この熱量は何なのでしょうか？人間の持つ底しれないパワーを浜田省吾さんに見せつけられた思いでした。アフリカという舞台で、エネルギッシュな活動を今後もやっていこう！とあらためて心に決すことができました。

浜田省吾さんと仲間の皆さんから構成されるJ.S.Foundation様より水事業へ多大なご支援をいただいたため、御礼をお伝えするという目的も達成できて一安心しました。浜田省吾さん、ファンの方々、J.S.Foundation様、本当にありがとうございました。浜田省吾さんに比べると小僧の私ですが、今後も頑張っていきます！！

05　国内活動、ニュース

ちょっと変わった報告書
「健康農業 亘理いちご畑 同窓会 2022」に寄せて

2022年6月、東日本大震災後の支援活動の1つ、「健康農業事業」の同窓会を開催しました。開催の経緯や当日の様子を、元東北事業部長の大嶋一馬さんがブログにまとめてくださいましたので、一部をご紹介します。関係者の皆さま、ご支援者の皆さまに、この場を借りて衷心より感謝申し上げます。

❝同窓会の楽しさは言葉に表すことができない。うれしかったのは、みなさんがこの日を心から楽しみにしていてくれたことだ。そして、「健康農業 亘理いちご畑」は参加者40数名の活動であったが、29名ものじいちゃんばあちゃんが参加してくれたことのみならず、一人たりとも欠席しなかったことに感激した。

振り返ると、東日本大震災から11年が経過し、ロシナンテス東北事業部が宮城を後にして6年が経過したが、復興支援がいつの間にか協働する活動となり、仲間となって友達となった。川原のアフリカでの活動もこのような経緯をたどっていることだろう。

ロシナンテスの活動は、相手の立場になり寄り添い支えながら協働し、現地の人だけでできるようになるように促していくことだと思う。アフリカであろうが東北であろうがその理念は変わりない。それができるのも多くのロシナンテス支援者が寄付や様々な形で背中を押してくれたおかげだと思う。そして、現地で活動するロシナンテたちが皆さんになり代わり濃密な時間を過ごす。この濃さとでもいうべき時間を皆さまにも共有していただきたく、乱筆乱文ではありますがちょっと変わった報告書をしたためさせていただきました。❞

05　国内活動、ニュース

高山理事がロシナンテスのアフリカ ザンビア事務所での活動に参加

地域医療と公衆衛生の専門家で、2018年よりロシナンテスの理事を務める高山義浩医師が、2022年11月～2023年3月の間ザンビア事務所へ駐在します。

高山医師には現場の詳細な視察を通して、事業運営の改善やニーズ調査、新規計画立案等について助言をいただく予定です。

現地へ赴任する高山医師より抱負

「周産期における母子の安全を守ることは、地域医療と公衆衛生における主要な目標のひとつとなります。ただし、お産とは、女性を中心とする地域文化の要でもあり、長い歴史のなかで紡がれてきた習俗という側面もあります。危機管理という男性的な考え方で押し切られてしまうこともあるため、できるだけ女性たちの語りに耳を傾けながら、ロシナンテスらしい草の根活動に貢献できればと考えています。」

ロシナンテス理事長・川原尚行よりコメント

「高山先生は沖縄の方々の気持ちを大事にされて地域医療に尽力されており、その観点からロシナンテスの医療支援活動にアドバイスをいただいています。ともにザンビアの地域医療に取り組めることは無上の喜びです。将来的に高山先生はザンビアで得られた経験をもとにして、沖縄をはじめとする日本国内の地域医療にこれまで以上に貢献してくださることでしょう。」

05　国内活動、ニュース

アフリカ開発会議（TICAD8）で2つのサイドイベントを開催しました

2022年8月27日、28日にアフリカのチュニジアでアフリカ開発会議（TICAD8）が開催されました。

ロシナンテスは今回、2つのサイドイベントをオンラインで共催しました。それぞれ日本語への通訳付きのアーカイブ動画がご覧いただけますので、ご関心のある方はぜひチェックしてみてください。

■母子健康手帳と情報のデジタル化：アフリカの母子に対する恩恵と公衆衛生への貢献

1つは、長崎大学とWHO協会との共催で開催しました。日本にある母子手帳をデジタル化することと、そこで得られた保健情報を公衆衛生的に分析しヘルスセンターを通じてお母さんにお知らせするようなシステムを目指す活動について、関係者が共通認識を持ち、よりよい仕組みを考案するための情報共有と意見集約を行いました。

>>アーカイブ動画はこちら

■創薬やアフリカ伝承薬活用による健康的かつ、より良い生活を求めて

もう1つは、アフリカの薬草を生かして創薬を目指すことをテーマに熊本大学との共催で開催しました。熊本大学は、これまでにアフリカの教育機関等との連携のもと、アフリカの伝統薬の安心安全な利活用を目指し様々な取組みを行っています。アフリカの公衆衛生の向上と健康的な暮らしの一助になると、ロシナンテスも協力している取り組みについて意見交換しました。

>>アーカイブ動画はこちら

05　国内活動、ニュース

参加費無料
オンラインイベント開催!!

■2023/1/8（日）16:00～17:30　※ご支援者様限定※
皆さまのご支援でできたこと～2022年を振り返って
クーデターや新型コロナ、インフレなど、思うように事業を実施できなかった数年を経て、2022年は様々な事業を動かすことのできた年でした。これもひとえに、応援してくださったご支援者の皆さまのおかげです。感謝の気持ちをぜひ直接お伝えできればと思います。
>>申し込みはこちら

■2023/2/5（日）16:00~17:30
子どもたちに安全な学び舎を！スーダンの学校事業完了報告会
北コルドファン州の学校で実施している学校事業について、12月の看板設置をもって完了となります！教室不足や校舎の壁の崩落など、厳しい環境を改善すべく進めてきた学校の建設・改修事業について、駐在職員がご報告します。
>>申し込みはこちら

お申込フォームの利用が難しい方は、
メールもしくはお電話でご連絡ください。

A. メール
宛先：info@rocinantes.org
件名：活動報告会申込
メール本文に以下の項目のご記載をお願いいたします。
①参加希望のイベント日付　②お名前　③メールアドレス
④事前に聞きたいことなど

B. お電話
TEL：093-521-6470（平日10時～17時）

06　事務局からのお知らせ

ゆうちょ銀行（郵便局）の窓口からの振り込みで手数料が免除になります

この度、ゆうちょ銀行の振込手数料免除口座を開設しました。ロシナンテスの途上国における活動に対するご寄付は、**免除口座へ郵便局窓口から払込み**していただくことで、現金利用時の加算料金ならびに硬貨取扱料金を含む払込み時の手数料が免除されます。（国内の災害支援や入会金・会費といった入金には適用されません。）

口座記号番号：00940-2-213477
加入者名：認定NPO法人ロシナンテス

【ご注意】

- 窓口以外のご送金（ATM、ゆうちょダイレクト等）は、手数料免除になりません。
- 上記以外の口座は手数料免除になりません。
- 上記口座は【寄付金専用】のため、各種入会金や年会費にはご利用になれません。

領収書の年一回発送についてのお知らせ

下記の対象者の方には、一年分のご寄付（1～12月受領分）をまとめて記載した領収書を翌年1月に発送しております。2022年分は、2023年1月末までに発送予定です。2/6を過ぎてもお手元に届かない場合は、ロシナンテスまでご連絡ください。

【対象者】
・毎月ご支援いただいている方（クレジットカード・口座振替）
・年一回発送をご希望の方

06　事務局からのお知らせ

事務局だより

　こんにちは。東京事務所の神です。11月に入職しちょうど2週間。前職も国際NGOにおりましたが、これまでとは違うロシナンテスならではの活動を知り、とても刺激を受けています。特に、政治的に難しい地域での活動は、現地スタッフの日々の奮闘があってできていることだと肌で感じています。そんな現地の今を、支援者の皆さまにも温度感をもってお伝えしていけたらいいなと思っております。

　私事ですが、小学1年生の娘がおり、私の仕事について聞かれたことをきっかけに、「みずをくむプリンセス」という絵本を読み聞かせました。ジージーという女の子の目線で、美しいアフリカの情景と水汲みの日常が描かれたもので娘のお気に入りです。

　スーダンでは、ハフィールの改修が完了しました。このきれいな水で、ジージーのような多くの子どもたちが、健康に笑顔で暮らせるようにと、願っています。